

設立趣意書（案）

- 近年、世界各地で異常気象による災害が発生し、道内においても激しい降雨の頻度が増加するなど、気候変動の影響が顕在化しており、その主な要因として地球温暖化があげられています。こうした中、2015年のパリ協定の採択以降、国内外で脱炭素化の動きが加速しており、我が国においても、2020年10月に政府が「2050年カーボンニュートラル」を宣言し、経済と環境の好循環を作り出すこととしています。
- 道では、気候変動対策に長期的な視点で取り組むため、国に先駆け、2020年3月に「2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロ」をめざすことを表明し、気候変動問題の解決と世界に誇る北海道の創造に向けて、本道が有する豊かな自然や地域資源を利用した再生可能エネルギーと広大な森林など吸収源の最大限の活用により、環境と経済、社会が調和しながら成長を続ける北の大地「ゼロカーボン北海道」の実現を目指しています。
- 脱炭素社会に向けては、道民一人ひとりの意識やライフスタイルの転換などによる徹底した省エネの取組はもとより、あらゆる分野における事業者や行政が一丸となって「ゼロカーボン」という高い目標を共有し、連携・協働しながら取組を進め、脱炭素型の社会システムに変革していく必要があります。
- そこで、経済、産業、金融等の幅広い関係者がオール北海道で、将来の目指す姿を共有し、先進的で具体的な取組を全道に拡大するため、関係者間の協議・連携を行う場として「ゼロカーボン北海道推進協議会」を設立し、「ゼロカーボン北海道」の実現と我が国の気候変動対策へ地域からの貢献を目指してまいります。